

# 近代化産業遺産の産業観光の実態に関する一考察\*

## —富岡製糸場を事例として—

### A Study on Industrial Sightseeing of a Modern Industrial Heritage

#### —A Case Study in Tomioka Silk Mill—\*

西尾敏和\*\*・湯沢昭\*\*\*

By Toshikazu N. NISHIO\*\*・Akira YUZAWA\*\*\*

## 1. はじめに

「国土交通白書2009」<sup>1)</sup>によると、2008（平成20）年6月の内閣府「国民生活に関する世論調査」によると、今後の生活において特に力を入れたいと思うものとして、「レジャー・余暇生活」が最も高い割合となっている。参加した余暇活動を種類別にみると、「国内観光旅行」が5割を超えている。自分が住む地域での暮らしやそれを取り巻く生活環境について、2008（平成20）年11月21日から12月1日にかけて国土交通省が行った意識調査では、観光に期待する効果として、32.5%の人が「住民が誇りや愛着を持つことができるような活力ある地域づくりにつながることを」挙げている。このことについて、自分の住む地域を「誇りに感じている」、「どちらかといえば誇りに感じている」と回答した人の割合は27.5%であり、そのうち87.8%は、その地域に「観光客を呼び込むような魅力」（以下、「観光資源」という。）があると回答している。2008（平成20）年10月に国土交通省の外局として観光庁が発足したところである。内閣府の「観光立国と観光庁に関する特別世論調査」では、観光立国の実現に向けて特に重要だと思う施策として、「魅力ある観光地づくり」が58.6%で1位に挙げられている。

最近注目されているのが産業観光というテーマである。我が町が誇る地場産業があるという地域に、修学旅行や産業視察団、有志の勉強会などの注目が集まり、動きが活発になっている。JR東海の元会長須田寛氏らが中心になって東海地方を起点に運動の輪が広がり、「産業遺産や生産現場、産業製品に加えてコンテンツなどのソフト資源まで含めた分野を観光資源と捉えて、訪れる

人との人的交流を実現する」というコンセプトになった。日本における産業観光開発の歴史は、主には21世紀に入ってからのものであるが、世界では一足先に世界遺産という着眼でスタートしていた。1975（昭和50）年にユネスコ（国連教育科学文化機関）の国際条約として発効した世界遺産制度は自然遺産、文化遺産、その双方を含めた複合遺産の3分類で、合わせて890箇所が最新リストに登録され、世界観光の一覽表的存在になっている。イギリスのコッツウォルズ地方のアイアンブリッジ、日本の石見銀山遺跡などが近代化産業遺産の代表に名を連ねている。世界遺産は観光産業を盛り上げるために設定されたものではないという論者<sup>2)</sup>もいるが、産業の歴史を現代に語り継ぐ文化財としての価値と魅力が現代の観光振興に貢献している事実は誰も否定できない<sup>3)</sup>。

近代化産業遺産に関するハード・ソフト資源を観光資源と捉えて、文化財の価値と魅力が観光振興に貢献している産業観光に筆者らは着目した。

## 2. 研究の目的

群馬県（以下、県という。）の「平成20年度観光客数・消費額調査（推計）結果」によると、県内21箇所の産業観光<sup>4)</sup>を目的とした観光客数1,876千人は県全体客数62,978千人の3.0%であった。県の「平成21年ゴールデンウィーク期間中の観光客・宿泊客等の状況について（4月25日～5月6日の12日間）」によると、近代化産業遺産<sup>5)</sup>である富岡製糸場<sup>6)</sup>（写真-1参照）の観光客数11,574人は県全体客数683,383人の1.7%に過ぎなかった。

既往研究として、久保ら<sup>7)</sup>は兵庫県神戸市長田区の地場産業の特性、震災後の産業復興構想の概要、研究対象地区の概況等基礎的状況を整理した上で、当地区のまちづくり現場の資料である既往報告まちづくり協議会資料を基に、当地区まちづくり関係者の視点から、産業観光の構想段階の狙いとその後達成状況等の評価を行い、市街地活性化における産業観光による取り組みの意義に

\*キーワード：産業観光、近代化産業遺産、富岡製糸場

\*\*正員、修士（工学）、群馬県立高崎工業高等学校土木科  
（群馬県高崎市江木町700、TEL:027-323-5450、  
E-mail: tn1048240-sakai@jcom.home.ne.jp）

\*\*\*正員、工博、前橋工科大学工学部社会環境工学科



写真-1 現在の富岡製糸場全景（提供：富岡市）

ついて分析している。産業観光の概念を「単に現在ある産業遺産や地場産業の生産現場を観光の対象物として集客を図るというだけでなく、消費者のニーズに対応できる地場産業の生産構造への進化を求めるキーワード」としてとらえることが有効であることを示した。言い換えれば産業観光を消費者のニーズに対応できる産業構造の進化を促進する機能を持つ概念として積極的に捉え、市街地活性化に取り組むことが重要であると述べている。

大友ら<sup>8)</sup>は全国の観光資源を幅広く網羅しそれらを観るのに精通した記者によって批評されている旅行雑誌を用いて、漁業関連産業の観光資源としての魅力要素について言及している。観光対象として魅力的な場面や要素を把握している。すなわち、産業の現場には本物が観せる美しさや作業が行われる空間を体感することができる魅力がある。しかしながらその一方で受け入れ側の観点からみると安全性や衛生面、企業秘密などの問題があることにより、容易に産業施設を観光活用するのは難しい。そのため地域産業の全てを活用するのではなく、さしあたっては観光資源としての魅力の有無を慎重に吟味することが必要であろう。そのためには見学者の観点からその価値を見定めるための指標が必要であり、そうした見学者側の評価軸を加味した上で、本当に魅力あるものに絞って観光活用していくことも重要であると述べている。

以上から、地震被災地区の地場産業を事例として、産業観光が消費者のニーズに対応できる産業構造の進化を促進する機能を持つ概念として捉えられている。また、漁業関連産業を事例として、産業観光の観光資源としての魅力の有無が見学者側の評価軸を加味した上で慎重に吟味されている。ところが日本の近代化産業遺産を事例とした産業観光に関する研究成果は見られない。

県の近代化産業遺産の産業観光を活性化させる必要があると筆者らは考える。本研究は産業観光に着目して近代化産業遺産という切り口で、産業観光の実態を明らかにすることを目的とする。富岡製糸場を事例とする。観光客及び地域住民の産業観光に対する考えを明らかにするところに独創的な特徴がある。

表-1 富岡製糸場の観光に関する新聞記事見出し  
（「上毛新聞Webデータベース」より作成）

番号	掲載日	見出し
1	2009/1/13	《12市のビジョン 富岡市》分権未来への扉 エコ燃料の研究着手 生ごみ処理にも本腰
65	2010/1/24	軽井沢来訪者にPRへ 富岡・観光推進協議会調査 「行ってみたい」最多 富岡製糸場
66	2010/1/27	製糸場の玄関口上州富岡駅一新 駅舎改築や 広場整備 県など計画策定へ

表-2 返送されたアンケート調査用紙の被験者情報  
（富岡製糸場の産業観光に関する意識調査）

性別	男性		女性		
	45名 (56.25%)	35名 (43.75%)			
年代	60歳代 22名 (26.83%)	70歳代 19名 (23.17%)	50歳代 19名 (23.17%)	80歳代 8名 (9.76%)	40歳代 7名 (8.54%)
	30歳代 4名 (4.88%)	10歳代 2名 (2.44%)	20歳代 1名 (1.22%)		
	職業	自営業 23名 (28.05%)	無職 20名 (24.39%)	勤め人 19名 (23.17%)	主婦 18名 (21.95%)

### 3. 研究の方法

- (1) 富岡製糸場の産業観光の実態を明らかにするために、県域地方新聞である上毛新聞記事を利用した。紙面に掲載した記事を客観的に検索するために「上毛新聞Webデータベース」を活用することにした。Web上で検索キーワード「富岡製糸場」及び「観光」と掲載日「2009/1～2010/1」を入力して、新聞記事データを66件取得した（表-1参照）。観光客の産業観光に対する考えを明らかにするために、検索された記事から得られた富岡観光まちづくり推進協議会による観光客へのアンケート調査結果を利用した。
- (2) 富岡製糸場の産業観光に対する地域住民の考えを客観的に把握するために、2009（平成21）年8月、富岡地域でアンケート調査を実施した。ポスティングにより調査票を500部配布し、郵送による返送で、回収率は16.60%（83部回収）であった（表-2参照）。

### 4. 富岡製糸場の産業観光の実態を明確化

富岡製糸場の産業観光の実態を明らかにするために、「上毛新聞Webデータベース」より、「富岡製糸場」及び「産業観光」で検索して、2009（平成21）年の場合、全国産業観光フォーラム（以下、フォーラムという。）、デスティネーションキャンペーン（以下、キャンペーンという。）に関する新聞記事を10件得た（表-3参照）。

#### a) 「全国産業観光フォーラム」

①2月24日の記事では、産業文化財の観光活用を探るフォーラムが富岡市を中心に開かれる。全国の観光業者ら400～500人の参加を見込んでいる。主催の富岡商工

表-3 上毛新聞記事の検索結果

(「上毛新聞Webデータベース」より作成)

番号	掲載日	見出し
1	2009/2/24	富岡中心、10月に産業観光フォーラム 絹産業の魅力PR
2	2009/3/27	11年夏本県で展開 国内最大規模観光PR行事「絹遺産」売り出す JRデスティネーションキャンペーン 県など
3	2009/6/7	世界遺産めぐり対談 タレントの城戸さんら 絹テーマに分科会も 10月に富岡
4	2009/8/30	業者にテーマ説明 10月に全国産業観光フォーラム 都内で情報交換会 富岡市観光協会
5	2009/10/12	22、23日富岡で「全国産業観光フォーラム」製糸場と絹産業遺産群「体験型」推進で強み
6	2009/10/12	《22、23日に富岡で全国産業観光フォーラムin上州とみおか09》まちづくりの動機に 須田寛 全国産業観光推進協議会副会長 ソフト面の努力も重要
7	2009/10/12	《22、23日に富岡で全国産業観光フォーラムin上州とみおか09》分科会や見学会も かぶら文化ホール 須田さんと城戸真亜子さん対談
8	2009/10/23	富岡で全国産業観光フォーラム「世界遺産」テーマに記念対談
9	2009/10/24	県内の産業観光旅行者にPR「全国フォーラム」最終日「ものづくり」で4コースを提案 絹産業遺産や体験工房
10	2009/11/16	富岡製糸「絵画織」に 桐生織伝統工芸士の新井さん 絹製ブックカバーなど 世界遺産へ後押し

会議所などは、日本の近代産業発祥の地である富岡製糸場や県内各地の絹産業遺産の魅力アピールする。

②6月7日の記事では、タレントの城戸真亜子（以下、城戸という。）氏らによる世界遺産をめぐる対談をフォーラムで行う予定である。絹などをテーマに3分科会を開き絹産業遺産を組み込んだ体験型見学会を実施する。

③8月30日の記事では、富岡市観光協会などは東京銀座の「ぐんま総合情報センター」で観光情報交換会「サロン・ド・G」を開いた。本県の絹産業遺産群などフォーラムの主要テーマを観光関連業者ら39人にアピールした。

④10月12日の記事では、フォーラム前に須田寛（以下、須田という。）氏は観光インフラ（交通・宿泊関係施設）に代表されるハード面のまちづくりを前提として、同時に多くの観光客を温かく迎える観光地側の「もてなしの心」を地域の人々が身に付けて行動する「心のまちづくり」ともいうべきソフト面の努力を求めている。特に産業観光の場合は説明者、（実技）指導員が大きい役割を果たし、人的交流の要素が特別強い観光であるだけにソフト面の対応が観光の成否を握るといっても過言ではない。ハード・ソフト面の整備は観光まちづくりの努力そのものである。フォーラムが物心両面にわたる新しい富岡のまちづくりの強い動機になることを願っている。

⑤10月23日の記事では、フォーラム1日目の記念対談で須田氏は「日本では観光とまちづくりがミスマッチを起こし、観光客と住民の触れ合いがない」と指摘した。「生活そのものが自然な姿で維持され、コミュニケーションの生まれるゆとりがあるのが観光文化。こうした要素が世界遺産になったときに生きてくる」と話した。城

表-4 軽井沢観光客アンケート調査結果

(富岡観光まちづくり推進協議会調査より)

居住都道府県	東京都 56名 (28.0%)	埼玉県 44名 (22.0%)	千葉県 18名 (9.0%)	神奈川県 14名 (7.0%)
軽井沢訪問回数	10回目以降 61名 (30.5%)	2～3回目 54名 (27.0%)	4～9回目 49名 (24.5%)	はじめて 36名 (18.0%)
富岡市訪問経験	名称認知・訪問経験なし 103名 (51.5%)	名前も知らなかった 37名 (18.5%)	一度訪問したことがある 36名 (18.0%)	複数回、訪問したことがある 24名 (12.0%)
富岡市の観光資源・施設認知度	群馬サファリパーク (61.5%)	富岡製糸場 (43.5%)	妙義山パノ라마パーク・もみじの湯 (24.0%)	道の駅みょうぎ (12.0%)
富岡市訪問経験	富岡製糸場 (46.5%)	妙義山パノ라마パーク・もみじの湯 (40.0%)	群馬サファリパーク (33.0%)	道の駅みょうぎ (11.5%)
富岡製糸場訪問年齢層	29歳以下 (58.3%)	40代 (48.6%)	50代 (45.8%)	60歳以上 (45.6%)

戸氏は「ITサービスも活用し、女性も子供もお年寄りも車いすの方も、みんなが楽しくそぞろ歩きできるバリアフリーで一步進んだ観光地に」と提言した。

⑥10月24日の記事では、フォーラム2日目に県内の絹産業遺産や体験工房などを巡る産業観光のモデルコース体験見学会が開かれた。「ものづくり」をテーマとするコースをフォーラム参加の旅行者らに提案し誘客を図るのが目的であった。富岡製糸場を起点に遺産と先端の生産現場を組み合わせた4コースに113人が参加した。高崎市の絹産業遺産「新町屑糸紡績所」、昨年稼働したラスクの生産工場や桐生市の「のこぎり屋根」の織物工場を回る「絹の物語を体感する旅」コースには31人が参加した。他は富岡甘楽地域などの伝統産業の工場、工房を訪ねた「群馬の地場産業を体験する旅」、安中市内の製糸と輸送の遺産、工場を回った「絹産業の歴史を探访する旅」、多野藤岡地域の伝統的養蚕農家などを見学した「自然の恵みを体感し養蚕技術の礎を探る旅」であった。

⑦11月16日の記事では、桐生織伝統工芸士が独自の工法「絵画織」で絹製のブックカバーやバインダーなどを開発した。世界遺産登録を目指す富岡製糸場をグッズ面から後押ししようと企画した。新製品の図柄は富岡製糸場の錦絵を原画にした全景図とシンボルとなっているれんが造りの繭倉庫の2種類である。フォーラムの会場で初めてお披露目されて美しい色彩が人気を集めた。

b) 「デスティネーションキャンペーン (DC)」

3月27日の記事では、県とJR東日本、県観光国際協会が国内最大規模の観光PR行事を2011（平成23）年の7月から9月まで本県を対象地として実施すると発表した。世界遺産登録を目指す「富岡製糸場と絹産業遺産群」を

表－5 富岡市観光客アンケート調査結果

(富岡観光まちづくり推進協議会調査より)

居住都道府県	群馬県 (41.1%)	埼玉県 (22.8%)	東京都 (12.4%)	千葉県 (6.9%)
富岡市訪問回数	はじめて (34.7%)	10回目以降 (19.8%)	2回目 (12.9%)	3回目 (12.9%)
富岡市の観光資源・施設認知度	群馬サファリパーク (93.6%)	富岡製糸場 (79.2%)	妙義山パノラマパーク・もみじの湯 (63.9%)	道の駅みょうぎ (61.9%)
本日訪れた富岡市の観光資源・施設認知度	群馬サファリパーク (52.5%)	道の駅みょうぎ (50.0%)	妙義山パノラマパーク・もみじの湯 (16.3%)	富岡製糸場 (5.0%)
これまでに訪れた富岡市の観光資源	群馬サファリパーク (47.5%)	道の駅みょうぎ (29.7%)	貫前神社 (26.7%)	富岡製糸場 (25.2%)
行ってみたい富岡市の観光資源	富岡製糸場 (19.3%)	妙義山パノラマパーク・もみじの湯 (18.8%)	市立美術館 (16.3%)	群馬県立自然史博物館 (14.9%)
富岡市に対するイメージ	富岡製糸場 (62.9%)	サファリパークがある (52.0%)	妙義山 (30.2%)	自然がきれい (23.3%)
富岡市にあれば良いと思う周遊ルート	割引チケットがセットになった周遊ルート (45.0%)	子どもや紅葉、花めぐり、歴史などテーマが設定された周遊ルート (42.1%)	マップやパンフレットできちんと紹介されている周遊ルート (31.7%)	所要時間や距離などが設定されている周遊ルート (18.8%)
富岡市で充実していれば行ってみたいと思うもの	良い温泉がある (40.1%)	食べ物が美味しい (36.6%)	特産品やお土産等買物が楽しめる (35.1%)	子どもや配偶者が喜ぶ場所がある (32.2%)

売り出すほか新たな観光資源も掘り起こす。市民と協力して受け入れ態勢を整えて全国からの観光客増加を図る。期間中は駅や電車内のポスター、JRの旅行商品、テレビの旅番組など多方面から対象地を紹介する。工場見学などの産業観光、郷土料理、歴史、文化、さまざまな体験イベントも受け皿に加えて周遊コースを策定する。ボランティアガイドなど市民参加で受け入れ態勢を整えて地域を活性化し期間終了後も誘客を持続できるようにする。

5. 観光客の産業観光に対する考えの明確化

(1) 軽井沢観光客調査結果より

「上毛新聞Webデータベース」より、2010（平成22）年1月24日の記事「軽井沢来訪者にPRへ 富岡・観光推進協議会『行ってみたい』最多 富岡製糸場」では、潜在交流客の富岡市への誘客施策、交流ニーズを探り今後の誘客施策実施の一助とすることを目的に、富岡市と上信越自動車道で結ばれる代表的観光地、軽井沢町へ車で来訪者200名を対象に富岡観光まちづくり推進協議会が2009（平成21）年11月3日にアンケートを実施した。

表－6 富岡市地域住民アンケート調査結果

(筆者らの調査より)

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産暫定リスト登録後、観光客が増加した				
全く思わない 3名 (3.80%)	あまり思わない 4名 (5.06%)	何とも言えない 4名 (5.06%)	多少は思う 30名 (37.97%)	非常に思う 38名 (48.10%)
観光客に見学を奨める歴史的建造物				
貫前神社 39名 (48.15%)	富岡製糸場 35名 (43.21%)	龍光寺 3名 (3.70%)	旧茂木家住宅 1名 (1.23%)	その他 3名 (3.70%)

記事によると、回答者の3分の2が東京近郊の4都県からであった。全体の82.0%は軽井沢訪問2回目以上のリピーターであったが、富岡市については「名前は聞いたことがあるが、訪れたことはない」51.5%及び「名前も知らなかった」18.5%が7割に上った。軽井沢訪問が初めての人の48.6%が富岡市の認識や訪問経験がない。10回目以上の70.8%が富岡市を複数回訪問していた。富岡市内にある観光施設・スポットの認知度（複数回答）はパンフレット提示前で群馬サファリパーク61.5%、富岡製糸場43.5%、「妙義山パノラマパーク・もみじの湯」24.0%の順であった。パンフレット提示後に行ってみた場所を聞くと、富岡製糸場46.5%、「妙義山パノラマパーク・もみじの湯」40.0%、群馬サファリパーク33.0%に入れ替わった。年代別で富岡製糸場の回答率が最高だったのは29歳以下で58.3%であった（表－4参照）。

(2) 富岡市観光客調査結果より

(1)に関連して、富岡観光まちづくり推進協議会ホームページより、周遊実態の把握による将来的な周遊観光を実現するための施策を模索する目的で、群馬サファリパークと「道の駅みょうぎ」へ車等での来訪者202名を対象に2009年11月3日に実施したアンケート調査結果によると、回答者の83.2%が東京近郊の4都県からであった。全体の34.7%は富岡訪問が初めてであったが、10回以上の来訪者が19.8%を占めていた。富岡市の観光資源・施設認知度は群馬サファリパーク93.6%で最も高く、富岡製糸場79.2%であった。当日訪れた観光資源・施設認知度は群馬サファリパーク47.5%に対して富岡製糸場が5.0%に過ぎなかった。これまでに訪れた観光資源は群馬サファリパーク47.5%、「道の駅みょうぎ」29.7%、貫前神社26.7%、富岡製糸場25.2%の順に対して、行ってみたい観光資源は富岡製糸場19.3%、「妙義山パノラマパーク・もみじの湯」18.8%、市立美術館16.3%、群馬県立自然史博物館14.9%の順であった。富岡市に対するイメージは富岡製糸場62.9%で最も高く、「サファリパークがある」52.0%などが続く。富岡市にあれば良いと思う周遊ルートは「割引チケットがセットになった周

表一七 富岡への観光に対する地域住民の考え  
(筆者らの調査より)

番号	地域住民の考え	分類
1	富岡製糸場の見学者の現在の状況は製糸場見学とトイレ休憩くらいで次の観光地へ移動されている	通過点
2	富岡製糸場を見学しただけですぐに他県へ行ってしまおうではない	
3	宿泊施設が少ないので、短時間で点から点への移動になってしまっている	
4	泊まりで来るところではない	
5	来富者は観光だけでなくただの見学に過ぎない	
6	富岡製糸場の見学が単なる観光の時間調整に利用される	
7	街の中心部が廃業したお店が多くてまとまりません。美術館や文化ホールなどの立派な建物は街からは遠すぎてとても不便	街並み
8	空き地だらけの町ではとても観光は考えられない	
9	近辺の町並みが“きたない”	
10	観光施設があまりない。あったとしても魅力ない	
11	施設の連携がない。名産物がない	
12	観光の街の経験が無いので、戸惑っている	期待感
13	無理して観光地にする必要なし、心ある人達が大事に受け継いでいけば良い	
14	特徴ある町ではありませんので観光には余り期待していません	
15	他県の人にすすめられる観光地がほとんど無い	リピーター
16	だんだん観光客が減ってくるだろう	
17	一度は見学に来て二度三度訪れる人はいない	交通
18	来訪者に対して世界遺産に登録されたら再び来ますかとの質問したところ、二度と来ないという返事が多い	
19	駐車場だけ大きなものを作ってもダメ	パンフレット
20	バスなどの移動手段、公共交通機関がない	
21	古いパンフレットはやめて、常に新しいパンフレットを提供してほしい	

遊ルート」45.0%で最も高く、「子どもや紅葉、花めぐり、歴史などテーマが設定された周遊ルート」42.1%などがこれに続く。富岡市で充実していれば行ってみたいと思うものは「良い温泉がある」40.1%で最も高く、「食べ物が美味しい」36.6%などが続く(表一五参照)。

## 6. 地域住民の産業観光に対する考えの明確化

(1) 世界遺産暫定リスト登録後の観光客増加及び観光客に見学を奨める歴史的建造物について筆者らが実施したアンケート調査の集計によると、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産暫定リストに掲載した2007(平成19)年1月以降の観光客増加につい

て、富岡市の地域住民は「非常に思う」48.10%及び「多少は思う」37.97%が8割5分以上に上った。観光客に見学を奨める歴史的建造物は貫前神社48.15%で最も高く、富岡製糸場43.21%、龍光寺3.70%、旧茂木家住宅1.23%がこれに続く。その他、群馬県立自然史博物館、妙義神社、長学寺、大塩湖を挙げていた(表一六参照)。

### (2) 富岡への観光に対する地域住民の考え

富岡への観光に対する地域住民の考えについて、同アンケートの集計によると、①通過点という観点で、「富岡製糸場の見学者の現在の状況は製糸場見学とトイレ休憩くらいで次の観光地へ移動されている」ため見学者が少しでも多く滞留出来る具体的な手段を講じるべきである。「富岡製糸場を見学しただけですぐに他県へ行ってしまおうではない」。貫前神社や妙義山など素晴らしい場所があるので、コースをつくり立ち寄るようにすれば良い。点ではなくゾーンとしての観光ができれば良い。「宿泊施設が少ないので、短時間で点から点への移動になってしまっている」。観光に来るとするならば、富岡製糸場と群馬サファリパークだと思う。「泊まりで来るところではない」。「来富者は観光だけでなくただの見学に過ぎない」。「富岡製糸場の見学が単なる観光の時間調整に利用される」ことなく、富岡を楽しめる、人の温かさを感じられる企画やツアーを企画してほしい。②街並みという観点で、「街の中心部が廃業したお店が多くてまとまりません。美術館や文化ホールなどの立派な建物は街からは遠すぎてとても不便」であるためもっと長い目でまちづくりをすべきである。「空き地だらけの町ではとても観光は考えられない」。「近辺の町並みが“きたない”」と思う。「観光施設があまりない。あったとしても魅力ない」。「施設の連携がない。名産物がない」。「観光の街の経験が無いので、戸惑っている」感じである。③期待感という観点で、「無理して観光地にする必要なし、心ある人達が大事に受け継いでいけば良い」。「特徴ある町ではありませんので観光には余り期待していません」。「他県の人にすすめられる観光地がほとんど無い」ので温泉旅館があれば良い。リピーターという観点で、「だんだん観光客が減ってくるだろう」と思う。富岡製糸場は歴史も古く立派な建物であるが、「一度は見学に来て二度三度訪れる人はいない」と思う。「来訪者に対して世界遺産に登録されたら再び来ますかとの質問したところ、二度と来ないという返事が多い」。④交通という観点で、「駐車場だけ大きなものを作ってもダメ」だと思う。「バスなどの移動手段、公共交通機関がない」。⑤⑥その他の観点で、「古いパンフレットはやめて、常に新しいパンフレットを提供してほしい」(表一七参照)。

## 7. おわりに

本研究は産業観光に着目して近代化産業遺産という切り口で、富岡製糸場の産業観光の実態、観光客及び地域住民の産業観光に対する考えを明らかにすることができた。得られた知見は以下の通りである。

- (1) 富岡製糸場の産業観光の実態として、「上毛新聞Webデータベース」より、2009（平成21）年の場合、全国産業観光フォーラム、デスティネーションキャンペーンに関する新聞記事を得た。
- (2) 上毛新聞記事によると、須田氏はフォーラムが新しい富岡のまちづくりの強い動機になることを願い、観光インフラに代表されるハード面を前提とした観光客を温かく迎えるソフト面の整備が観光の成否を握ると述べた。
- (3) ポスターやテレビ番組など多方面から世界遺産候補地を売り出し、工場見学、歴史、体験などを受け皿に加えて周遊コースを策定することを県等がキャンペーンで明らかにした。
- (4) 軽井沢観光客対象の富岡観光まちづくり推進協議会調査によると、軽井沢のリピーター客が8割以上でも富岡市の名称認知・訪問経験がない人が5割以上であることを踏まえると、パンフレットにより観光客の行動に与えた影響は大きい。
- (5) 富岡市観光客対象の場合、富岡市の観光資源・施設認知度は群馬サファリパークが最も高かった。富岡製糸場は訪れた人が少なく、行ってみたい人が多かった。割引チケット、子どもや歴史などテーマが設定された周遊ルート、温泉や食べ物がそれぞれ充実していることを望む観光客が多い。
- (6) 産業観光に対する地域住民の考えとして、筆者らが実施したアンケート調査の集計によると、地域住民の8割5分以上は世界遺産暫定リスト登載後に観光客が増加したと感じていた。ところが、観光客に見学を奨める歴史的建造物は貫前神社が最も高く、富岡製糸場がこれに続く。
- (7) 富岡への観光に対して、地域住民は通過点、街並み、期待感、リピーター、交通、パンフレットという観点で考えていたことが明らかになった。
- (8) 通過点の観点では、富岡への観光は他の観光地への移動の通過点であることを強く認識している。観光客の滞留時間を長くして人の温かさが感じられるように、貫前神社や妙義山などの観光コース、宿泊施設などを充実させるべきと考えていた。
- (9) 街並みという観点では、美術館や文化ホールなどが充実している郊外に対して、空き地や空き家の多い中心市街地への観光は考えられず、観光施設もわずかで連携及び魅力がないと考えていた。

- (10) 期待感という観点では、観光客におすすめの場所がないため観光にあまり期待をしていなかった。
- (11) リピーターという観点では、富岡製糸場が世界遺産に登録されてもリピーターは少ないという意見が多いことが明らかになった。
- (12) 交通という観点では、駐車場整備よりもバスなどの公共交通機関、その他パンフレットの質を充実してほしいという意見が明らかになった。

従って、観光まちづくりの動機づけを目論んだフォーラム、世界遺産を意識した周遊コースを策定したキャンペーンといった富岡製糸場の産業観光は盛り上がりを見せている。観光客は割引チケット、周遊ルート、温泉、食べ物の充実を望んでおり、パンフレットの影響を受けやすい。地域住民は富岡が観光の通過点であることを強く認識し、衰退した街並みに観光地としての期待を持つことができないため、リピーターが少ないと考えている。

今後の課題として、富岡製糸場を含めた群馬県の近代化産業遺産の産業観光を活性化させるだけでなく、地域住民の産業観光に対する意識を高めていきたい。

### 参考文献及び補注

- 1) 国土交通省編：国土交通白書2009, 株式会社ぎょうせい, pp. 32-38, 2009.
- 2) NPO法人環境システム研究会によると、論者はユネスコ前事務局長の松浦晃一郎氏である。
- 3) NPO法人環境システム研究会：RE. NEW, vol. 31, NPO法人環境システム研究会, p. 1, 2009.
- 4) 県観光物産課によると、県内の産業観光は以下のような観光地点を指している。観光農林業（いわゆる「〇〇狩り」といった観光農園など）、観光牧場（観光利用の対象として扱っているもの）、伝統工芸（古くから継承されている地元独自の伝統工芸）などである。各観光地点の具体的な情報については非公表である。
- 5) 2007（平成19）年7月、経済産業省により日本に残る産業遺産は近代化産業遺産に認定された。
- 6) 富岡製糸場は2007（平成19）年1月、「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界遺産暫定一覧表への提案書に記載された絹産業遺産群の一つである。
- 7) 久保光弘, 土井幸平：復興まちづくりにおける「産業観光」の取り組みについての考察-ケミカルシューズ産業地・神戸市新長田駅北地区東部を事例として-, 2002年度第37回日本都市計画学会学術研究論文集, pp. 1099-1104, 2002.
- 8) 大友洋卓, 桜井慎一：漁業に関連する産業観光資源の魅力要素に関する研究, 日本建築学会計画系論文集第620号, pp. 243-248, 2007.